（廿四日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

# 滿鐵通信

高萩　好美

（第一信）

東京驛へ着いたのは十四日午後九時を五分ばかり過ぎてゐた二三の友人に送られてホームに入つて見ると既に澤山の乘客で滿たされてゐた。偶然にも僕と同科で二年にゐる朝鮮の留學生の金君に會つた。彼は數人の仲間と鄕里なる京城に歸る所であつた。此等乘客の大半は鄕省せんとする男女の學生と言つてもよい位に多くの學生を見受けた。下關急行列車か準備されるや我れ先にと車内になだれ込むのであつた。優勝劣敗生存競走を現實に示してゐる樣に思はれる婦人や老人などはとてもよい場所を得ることが出來ない。若い鬪手によい場所を取つて貰つて置えて發車間近かに悠々と入つて來るクイーンもある之なら安全である、若し腰掛けることも出來ず立つようなことがあるものなら名古屋あたり迄も立通さねばならぬ京都や大阪邊までも立つといふから自然先を競ふことになる。

僕はやつと腰掛けた丈は出來た、九時二十五分汽車は靜々とホームを離れた。他の人々の樣に僕も三人の友人と遲ればせに來た叔母さんの四人に送られて次第にこれらの人々から遠ざかつて行くのである。僕は多少感傷的にならざるを得なかつた。然し一方色々な想像と希望とに僕の心は燃わてゐた。僕の場所は女學校二三年位の少女二人連れと若いサラリマンらい白服の紳士の四人のグループであつた。場所を取れずに立つてゐる客も車内にはかなり多かつた。

出發の際のどよめきが去つて車内は靜かになつた僕は忘れものがないかと考へ見た。充分用意した筈のか一二の忘物に氣が付いたが後の祭りで致方がなかつた。新橋、品川、橫濱からはかなり乘込んだ汽車は暗の中を默々と進んでゐる。車内は非常に蒸暑い眠れそうもないので文藝倶樂部を見る。目に止まつたのは寥山莊主人の維新俠艶錄であつた。伊藤博文、高杉晋作、品川彌二郎、木戸孝允、久坂玄瑞などが俠妓との戀を面白く書いてあつた。そしてあの時代の志士などは偉ひと思つた彼女達には男の人物を見拔く丈の力があつた。これに比して今の志士は如何などゝこんな事を自問自答してゐた。隣にゐる女學生も本を讀んでゐた。彼女は女子大學附屬女學校の學生であることを知つたといふのは彼女が讀み疲れて膝に伏せた本は目白學報であつたから。

窓を開閉することから彼等と話合ふ樣になつた。僕の四つばかり前の所にも彼女等の友達がゐた、やがて其女學生は僕の隣の女學生の所へて

「私トランクを盜まれちやつたの、あの東京驛の混雜してゐる時らしいの」と非常に悲觀してゐた。

「マアそう。其はいけませんね、た尋ねになつて?」と心から心配と同情をもつて尋ねてゐた　（續く）

## 明日の吉凶

舊暦
六月九日
新暦
七月二五日

▲一白　地の利は無けれども人の和はあり進んでよし
▲二黑　内に屈する所あるも外には大に伸びる日
▲三碧　早呑み込みするときは意外の失敗を招くべし
▲四綠　苦は身をみがくの砥石と思ふて辛抱すべき日
▲五黃　身を低ふして根限り働くときは大吉となる
▲六白　外に出でて人の口舌を聞くよりも内が安全
▲七赤　内は能く整理する時は自ら順調となる
▲八白　運氣吉に向つて開け行く日入學名ひろめ何れも吉
▲九紫　運氣澁滯あせればあせるほど蹉づきあり萬般注意

---

# ◈次回讀物豫告

## 新作の幕末秘錄

目下本紙連載中の講談「闇に閃めく男達」は愛讀者各位の熱狂的拍手喝采裡に愈々近日中大團圓を告げる事となりました。で本社は次回讀物の撰擇に多大の苦心を拂ひました結果大衆講談の作家として謳はれる渡邊默禪氏作の幕末秘錄「狂怒亂心」を上載する事と致しました、作者が艶麗なる筆致と情緒躍ふが如き興味津々たる本篇に對して大なる期待の裡に引き續き御愛讀を乞ふ

## 大衆講談　幕末秘錄　狂怒亂心

渡邊默禪作

（梗概）……鎌倉二軒茶屋の外人斬殺、御典醫共謀の將軍家毒殺を始めとして幕末に於ける勤王攘夷黨の活躍は目覺ましく中にも水戸浪士が國家を思ふの至誠は白熱點に達し萬難を顧ともせず有ゆる危險を冒して志を遂げんとして頻りに暗中飛躍を試むる間にに其志を壯として戀する美人あり、我子を勵まさんとして自殺する母あり、後難を恐れず、義擧を助くる義人あり或は貞婦出で幾多の壯烈にして悲慘なる史實は殆んど幕末に於ける一大壯擧であつた。本篇は未だ是迄世に公けにせられざりし幕末秘錄も史實に研究を要する「鬼梶原」を中心としてこれに德川拔刀隊の背景を結びつけて所謂やさしき時は女よりも優しく小兒よりも仇氣なき彼鬼梶原は銃音を聞き白刄の光を見るや忽ちにして獅子となりデビルとなる。鳥羽伏見の戰には彼鬼梶原は遺憾なく本色を發揮して阿修羅の如く暴れ廻る太刀風に好敵ござんなれと其物凄きこと渡り合ふ者なかりき然るにこの鬼と歌はれ暴れ者と言はるゝ彼には幾多の涙あり情ある情話に滿ち琴唄の戀に櫻橋渡らんと……いはゆる女は藝者と言はず町娘と言はず色彩多樣にして且つ波瀾萬重所謂幾多の葛藤幾多の波瀾は常に戰場と相俟ちて戀戀の奮鬪を相つゞけ總てがその極に達すや或は發して烈火となり或は滅して哀音となり終いに一念凝つて勤王の刄は宿望を遂げ思ひは結ばれて壯烈無比の最後を彩る感興無限の一大秘錄であります。

---

講談

# 闇に閃めく男達

（148）

高田淚川作
尾崎雪歷齋畫

## 花見の爭鬪

春の一日金五郎は養父母を伴ひ、若いやつを一人連れ向島へ花見に來た花見ざかりであるから穆しい人出である、へうたんを下げてしゆしようらしく行くもあれば中には空樽を手に醉つた振りをして誰れとも知らぬ人に馴れなれしくしかけて花見がてらに酒をかせぐなんて云ふ人、怪しからんものもある、金五郎は養父母にこゝが三めぐりそこが言問ひと花を見せながら名所舊蹟を案内してあるいてゐると前方で

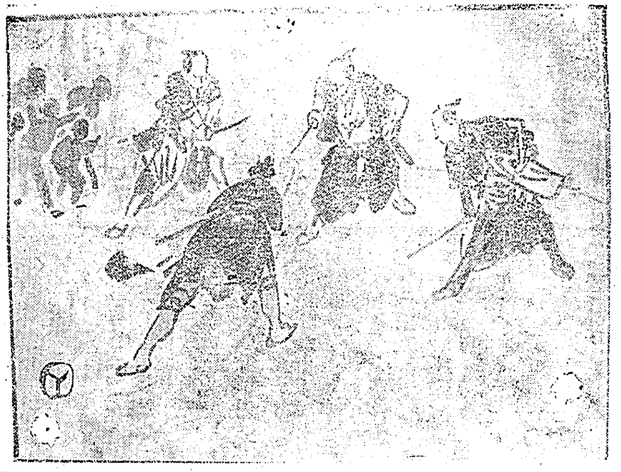
「ソリヤ喧嘩だ、果し合ひだ」とワイ〳〵騷ぐ聲がして大勢の者が逃げて來る、火事に喧嘩その頃の江戸の花、別段珍らしくないが養父母にあやまちがあつては大變と、すぐそばにあつた茶店の奥座敷へ老父母を伴ひ行き若い奴を連れて置き大勢の人かあまり騷ぐを見るに見兼ね、自分はその現場まで來て見る、それは丁度白ひげのあたりであつたその頃武家の風俗は世の泰平に馴れ、武骨一變の昔と代りきやしや風流も專らとするようになつた花見などと云ふ時には富士笠と云ふ深い笠を冠り當世風の伊達羽織男女共目に立つなりをしたものである。この派手な絹羽織に細身の大小、よりをの草履をはいた三人の武家笠をかむつてゐるから顏はよく判らないその前方にそり下げやつこで裾を高くはしより向ふずねへ灸かくしと云ふ三角の紙をあてつくりひげをした一人のやつこが腰の者を上段に振りかぶつてゐるこの頃は一かどの役に立つやつこを抱えなるべく派手なりをさして供をさせ、主人が自慢したものであつた相手は矢張り三人の武士、何れも九州邊の藩士と見ゐる、小びんのあたりははげしい擊劍のあとです、大小は皆短い九州の武士はすべて長い刀がすきでとりわけ加賀の藩士越前の藩士などはつかさやかけて五尺もあろうといふのを差した頃であつたが薩摩武士に限つて重ねの厚いむその太くみぢかいやつで水屋の天びん棒見た樣な刀をさした、これは長いと使ひ憎いからであつた三人ながらたすきをかけ股立ちを高く取り上げはだしになり三方からとりつめてゐる間違ひの起りは斯うだつた、やつこは千五百石取りの旗本服部市之進方の抱へ勝平と云つた今日はその子息市三郎のお供をして市三郎は友人である平岡主馬、犬伺一郎の二人を誘ひ向島へ花見に來た人ごみの中、三人の武士とすれちがひ樣刀のさやが當つたのが喧嘩の元旗本風をふかせば相手はあまり旗本連の威張り散らすを心憎く思ひから互に云ひつのりいよ〳〵果し合ひとなつたのであるやつこは元より腕に自信はあつたが相手もなか〳〵手ごはくことに三人、大分危く見ゑたので勝平、三郎初め主馬、一郎の三人はたまり兼ね笠を脱ぎ捨て各々一刀を拔いてやつこの助勢をなし、

「同擧ぞ花見る人の長刀」で騷ぎはいよ〳〵きくなつた。

「御武家さん方マア〳〵お待ちなせえ」

金五郎は白刄の下にとび込んだ

「殿樣方、わつちは見らるゝ通りけちな町人でござゐやすが見らるゝ如くこの花見の人出、この中で果し合ひなどゝ殺風景なことをなされてはどれだけ町人共が迷惑をいたすか知れませんわつちがこの扱ひをいたすなどの力はごぜゐませんが果合ひなら人のをらない誰も迷惑せぬ所でたやりなせゐまし」



---

廣告

平町田町
高久病院
電話五一三番

---

四倉海岸　初音

一、例年の通り四倉海水浴場に出張所設けましたから是非一度御立寄下さい
一、團体の際は大勉强御相談に應じます
一、無料脫衣場の設備もあります

平町新田町　初音　電話二二六番

---

日東のラジオ

最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
當分の間　奉仕的破格値段
三球セット取付共
A　百貳拾五圓
B　百圓
C　七拾圓

御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。

平町白銀町　日東商會　電話四二八番

---

ツルヤ洋品店の
夏の子供服陳列會

イタヅラ着　三十錢より
ボイル服　一圓四十錢より
富士絹服　二圓より

御自由御覽になられる樣店内に陳列致しました。

特に御勉め品霜降通學服
大特價提供!!
一號　一圓拾錢
二號　一圓
三號　九拾錢

平町四丁目　ツルヤ

---

開店御披露

氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を經營は大塚肉店故原料豐富、是非一度御試食の程を

女給數名入用。

カフエー幸樂　平町六丁目電五（三九番）

---

X光線科　外科專門
上田外科醫院
入院隨意（自炊の便あり）
平南町　電話一二九

---

優秀なる最新型腕卷時計

◈クローム側　白金代用側

| | |
|---|---|
| 十型　十石入　アンクル | 七圓五十錢 |
| 十型十五石入上アンクル | 拾壹圓 |
| 九型　十石入上アンクル | 九圓五十錢 |
| 九型十五石入上アンクル | 拾三圓 |
| 八型十五石入　アンクル | 拾貳圓 |
| 八型十五石極上アンクル | 拾五圓 |

◈十八金側（金質保証）

| | |
|---|---|
| 十型　十石入上アンクル | 拾貳圓五十錢 |
| 十型十五石入上アンクル | 拾八圓五十錢 |
| 九型十五石入上アンクル | 拾五圓 |
| 八型十五石入上ヤンクル | 拾七圓 |

平町五丁目（釜屋商店前）
鐵道省御用　金光堂時計店
電話七三六番

---

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

---

國產品普及宣傳
抽籤附大特賣
精工舍製腕時計セイコー
大懸賞額

| 賞 | 品 | |
|---|---|---|
| 一等 | 金壹百圓（復興債券） | 五十本 |
| 二等 | 金五十圓（同） | 百本 |
| 三等 | 金拾圓（同） | 二百本 |
| 四等 | 金五圓（同） | 五百本 |
| 五等 | 精工舍製ニッケル丸形机上時計（市價一圓卆錢） | 四萬九千百五十個 |

賞金總額金拾萬貳千九百七拾圓也（一本も空籤なし）
特約店　會田時計店　平町四丁目（電話三六三番）

---

內科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
入院隨時
平町田町本通り（電話一一四番）

---

健康第一
健康は胃腸から
ホシ胃腸藥
クスリはホシ
星製藥株式會社
東京・大阪

## 活躍の前提として
## 重役の增員斷行
### 植田町の磐東銀行
### 株主總會で決議

石城郡植田町磐東銀行では縣下過般來の財界動搖に際しても殆んど同等の影響なく當時行はれたる預金の引出しも僅に一萬圓內外に過ぎず寧ろ豊富なる拂出し準備金の運用に關して考慮を拂ひつゝある程の狀態であるが地方財界動搖直後の株主總會は昨三十一日午前十時から同行倉庫樓上にれいて開催定款變更の結果

取締役現在江尻博孝、金成通、金成金三諸氏の外新任兒玉萬平、山野邊文雄、馬上誠一、金成欽次諸氏を

監査役現在岡山保治郎、古川傳一兩氏の外新任村松義節、久保木榮作、藤田淺之助諸氏を

何れも增員し尙從來永く取締役として功勞少からざりし安島重三郎氏は專心目下休業中なる磐城銀行の整理甦生に努力するため同行取締役を退く事となり彼これ陣容を改め他日の活躍に資する事になつた而して同行の今期成績は

前期繰越金を合せ當期純益金一萬六千四百七十三圓三十二錢、內法定積立金千七百圓、退職者給與基金五百圓、役員賞與金七百圓、株主配當金四千七百九十三圓七十五錢（年六分五厘）後期繰越金八千七百七十九圓五十九錢

で前期同樣の配當容易なるに拘らず六分五厘としたのは去月十二日知事提案の協定申合せによつたものである

## 鐵相を相手取り
## 慰藉料を請求
### 磐崎村宮下踏切で
### 轢殺された小供の父が

去る四日午後三時半頃石城郡磐崎村大字馬玉國井藤太郎方芳雄（一五）が下り貨物列車の進行し來るに氣付かず友達と同村宮下踏切橫切らんとした際該貨物列車の機關車に觸をとられ約三間程はね飛ばされ胸骨折腸內出血の重傷を負ひ直に平町植田外科醫院に入院せしめたが遂に五日夕刻死亡した同所は直線にて運轉に注意をすればかゝる事故の起るところでないので

被害者父藤太郎は一、運轉手の不注意一、該踏切は人の通行相當多數あるに拘らず同踏切の設備不完全である事及番人を置かぬこと等の理由を以て昨二十三日山野邊辯護士を代理人として鐵道大臣を相手取四千二百三十圓の慰藉料請求訴訟を平區裁判所に提起した尙該踏切に番人を置く事につき同地方民から再三鐵道當局に陳情したが未だ實現されずにゐたものである

## 衛生宣傳（一トセイ節）
### 飯野村　猪狩與之作

一トセイ
人は誰しも皆同じ
常に健康長壽をば
祈らぬ者は一人なし
老少不定に果てるのも
歸する處は皆な病

二トセイ
不注意勝ちから偶々に
發熱する人數知れず
不養生から重病に
陷るものも亦た多し
攝生大事と心得な

三トセイ
御國の法規を重んじて
公衆衛生專一に
傳染性の病をば
互に包す醫師さんへ
自ら進んで公に

四トセイ
よその事より何よりも
衛生本意に心懸け
日毎に用ふる食器なぞ
其の都度毎に煮沸して
常に豫防を怠るゝな

五トセイ
何時も日和の良き時に
必ず洗濯怠るな
夜着や寢卷や夜具布團
日光消毒する樣に
入梅時など尙ほの事

六トセイ
無論食事は大切に
成可く消化の良き物で
滋養豐富に經濟で
調理も易く味もよく
多衆の嗜好に適ふもの

七トセイ
何物よりも養生で
精神的の慰安には
晩酌するなど其の一つ
家庭の團樂第一に
入浴するなど氣樂なり

八トセイ
病の數は多けれど
取り分け十種の傳染病
空氣傳染するものは
黴菌性のものである
マスクも掛けたり消毒も

九トセイ
兒供持つ親氣をつけな
水の代りに湯冷ましを
不熟の菓實や腐敗した
蜜菓子などは絕對に
飴もの等にも注意しな

十トセイ
年寄る人は殊のほか
餘りに過勞せぬ樣に
二十臺青年諸君には
暴飲食を愼みな
家の爲めなり國の爲め

## 百餘名の
## 團体視察
### 東京薪炭組合が
### 當地方を

東京薪炭組合長以下百餘名は來月七日來平午前は內鄕村磐城炭鑛を視察し平町住吉屋本店に一泊地方荷主と懇談を遂げ翌八日は双葉郡上岡村平山製炭事業所を視察して歸京する豫定だが濟三郡同業組合では同日歡迎のため富岡驛前から自動車數臺をかつて上岡製炭事業所に輸送する計劃で二十一日東京組合副組合長菅野貴藏氏は來平打合せて歸京した

### 錦村の熊野祭

錦村　縣社熊野神社大祭は八月一日擧行するが青年の余興として行われる鮫川の清流燈籠流も一層盛大に擧行する由でその準備に忙殺されて居る

## 青天白日の身となつた
## 白水事件の治八郎
### 立會檢事上告せず
### 無罪の判決確定

內鄕村白水の大越五平一家五人鏖殺事件の被疑者として曩に福島地方裁判所平支部で千葉裁判長から死刑の判決を言渡され控訴の結果去る十六日宮城控訴院石井裁判長から「前判決を取消し無罪とす」との判決を受けた鈴木治八郎（四九）に對しては立會檢事から直ちに控訴するものと觀られてゐたが二十三日の上告期間中檢事は遂に控訴權を放棄し前判決に依る無罪は確定するに至つた

### 金成通氏が
## 農銀取締役
### 大多數で當選

植田水力電氣株式會社長金成通氏は本縣農工銀行重役改選に當り大多數を以て取締役に當選就任した

### 變換地の一
## 調査終了
### 無申告地は
### 五百筆餘

平稅務署では過般から同署管內の無屆け地目變換地の調査中であつたが去る十六日終了したその結果無申告地は五百筆の多きに達して居るこの地目變換の大部分は田畑から宅地になつたもので又その多くは平町であるが同署調査の結果は調査前の豫想よりも筆數が非常に多いので近く各所有者へ警告を發し全部整理をなす筈

### F・N社
### 映畫漫談
## 奈良の大佛の二倍の木馬

規模の大きさに於いて「十誡」を凌ぎ背景の素晴らしさに於いては遙かに「バグダッドの盜賊」を凌駕するといふ大物「トロイ情史」は愈檢閱を通過したが此の映畫の撮影中スパルタ軍勢が難攻不落のトロイ城を陷落させるためにスパルタ王がトロイ王に木馬を獻上する場面があるがこれに使ふ木馬が實に大きいものでお伽噺の「木馬物語」の中にも出て來るが馬の胴体の高さが約百呎奈良の大佛の二倍はあるといふ代物、中は伽藍洞で澤山の兵隊が隱れることが出來る樣になつて居る、勿論この伏兵でトロイ城を陷落させるのだが昔は日本に限らず西洋でも頭のよい奴が居て氣の利いたトリックをやつたものだといまさらながら感心させられる。

### 日活社長夫人
### 逝去

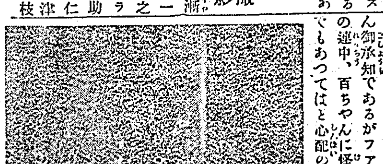
日活社長橫田永之助氏夫人りか子刀自は心臟病にて去る六日逝去したが九日京都市智恩院山內一心院に於いて午後一時から告別式を執行した。

### 東亞映畫
### 「雁歸來」
### 二十五日封切

東亞映畫竹井諒原作脚色石田民三監督澤村勇、都さくら主演「雁歸來」は二十五日から封切、新進スターの澤村勇が熱演せる近來にない力作名篇である。

### 全快した田三郎
### 小猿七之助撮影

帝キネの松本田三郎は漸く全快したので佐藤樹一路監督の下に「小猿七之助」に着手したキヤメラは立花幹也で小猿七之助は田三郎、目明し電の仁八は嵐璃德、お花は高津愛子、御守殿お糸は松枝鶴子である。


東亞映畫「梅八色傀儡」

### ゴシツプ
### お守攻めの
### 百ちやん

帝キネの市川百々之助は「朱鞘組」で眞劍を使用して居るといふことは皆さん御承知であるがファンの連中、百ちやんに怪我でもあつてはと心配の餘りか毎日三十近くもお守を送つて來る、有り難いは有難いが毎日〳〵三十も來るのを全部つける譯にも行かず茲のところお守攻めの態である。

である

## 傳染病豫防
### 全町に宣傳
### ビラを配布
### 町當局が

腸チブス、赤痢、疫痢其の他夏季の傳染病流行期に入つたので平町當局では徹底的に豫防方策を講ずべく各種の準備を進めてゐるが此程全町に次の如き豫防宣傳のビラを配布町民の衛生觀念普及に努めてゐる

△夏季傳染病豫防に關する注意要項

傳染病の內夏季に多く流行するのは疫痢、赤痢、腸チブス、パラチブス類です

一、第一豫防上の注意要項
イ、胃腸を丈夫にすること
ロ、生物の飲食に注意
ハ、臺所の清潔
ニ、便所下水　掃除と石油乳劑、撒布
ホ、蠅、驅除
ヘ、寢冷せぬ樣腹卷
ト、食器の煮沸消毒
チ、室內の清潔

二、第二發病後の措置
若し惡寒、發熱、下痢、嘔吐等を催す時は直に醫師の診察を受ける事が緊要です

三、本年一月以降傳染病患者發生したる家にありては特に家屋內外の藥品消毒が必要であります

以上の各項は傳染病豫防上最も必要の事柄ですから必ず之を實行せられたし

本年一月以降の傳染病發生數は

腸チブス七十三名にして昨年に比し四十三名增、疫痢一名にて昨年と同數、赤痢六名にして昨年より三名增、猩紅熱三名にて昨年と同數、疱瘡四名とす

本年は天候順調ならざれば此際各自保健衛生上に一層注意せられ以て傳染病に侵されざる樣心掛られん事を切望す

平町役場
平警察署

## 四倉漁港修築の
## 期成同盟會成る
### 會長新妻氏以下決定
### 明日發會式擧行

石城郡四つ倉町漁港修築期成同盟會は這般より會則及び運動方法等に就き協議を重ね役員選定につき愼重審議を遂げ二十一日午後六時から最後の詮衡委員會を開き左の如く役員會を開き左の如く左員を物色詮衡しそれ〴〵承諾を得て更に二十五日午後五時から劇場四倉座に於て發會式を盛大に行ふ事に決した

▲會長新妻盛▲割會長小港宗吉、寫倉次郎▲會計外山藤吉▲幹事若干名▲出席辯士吉田彌十郎▲長

谷川寅次郎、吉田壽三郎
値田三郎

## 赤井村水稻
### 萎縮して枯死
### 肥料還元から

石城郡赤井村地內三町步の水稻が最近萎縮して枯死するを郡農會に屆け出であつたので二十三日鈴木技師出張調査をなしたところ有機肥料還元分解の生じた有毒物のためと判明善後策としては土壤の上下を轉換し日光にさらして石灰をかけ分解作用を行はせるより外途がなく重ね〴〵に農民はおびえてゐる

## 農村を離れゆく
## 子女の數激增す
### 農村疲弊を如實に物語る
### 平署の出稼人調べ

當地方の農村は大正五年の歐洲大戰によつて一躍農産物價も騰貴し幾分裕福な生活をなし得たがこれも束間大正九年の財界大恐慌の影響をうけその反動を喰らつて米價は逐年慘落續きに加ふるに生産費の高騰で疲弊困憊は全く極に達し每年自作農から小作農にかはらねばならぬ農民即ち土地資本主義經濟組織の發達によつて小作農民になるものが多くなる一方で農村救濟資金とか或ひは自作農創設維持等の政策も現在の農村にとつては高踏的救濟に過ぎず農村の最低部に蠢動してゐる小作農民にとつては何等の効果も齎さない有樣であり、それだからと言つて土に生れ土に育ち土に死ぬべき運命を持つてゐる農民は土地に對する執着から容易に轉業、離職も出來ず自分自らを喰つてます〳〵窮迫のドン底に陷りつゝある現狀でそれが爲には愛する子供を農奴に或ひは女工にまた慘ましい藝娼妓酌婦等に賣り僅かにも祖先祭祀の土地を渡さないやうに希つてゐる今平警察署の調査によると管內で紡績製糸その他の工場に女工として縣外或ひは縣內の各織維工場に昨年中に出稼ぎした數は大正十四年の二百二十餘名が三倍四百餘名の多きに達してゐるのを見ても農村の窮迫程度はうなづける更にこの外農奴藝娼酌婦等に賣られゆくものを合すれば少くとも五百名を下るまいと見られてゐるこれ等のものは忠臣藏のお輕以來人生を一貫して來つた生活悲劇であり連續的生存地獄である賣られゆくものゝ悲しみを味はつてるといふ悲慘な現狀である

## 鮫川清遊客

錦村鈴木林氏等が計劃する鮫川諮揚會は鮫川勝景舟遊び、地曳網、遊覽團体のためすべて實費にて舟中の丁栽、食器すべて遊覽者のため丁寧親切を盡し近村各炭礦及平町田町青年團六十餘名及、廿五日には二丁目青年團一行磯原遊覽團体と今迄かくれたる鮫川は遊覽者のために非常に賑つて居る

## 自殺や他殺の
## 變死者六十八名
### 男女共三十歲前後が多い
### 平署管內上半期

平署管內に於ける今年一月から六月中までの上半期中の檢視した變死者數は六十八名に達してゐる此れを男女別にすると男四十六名女二十二名と言ふ割合であるが變死者の死因は行倒れて死んだ男五人、縊死が男二人一番多いのは轢死の男十八人、女三人、落盤壓死男八人、女が五人、瓦斯窒息が九人女が五人、死男四人其の他男十六、女九人で此れを前年度の上半期に比較して見ると其の數に於いて半數にも足りないが昨年度の上半期中には例の磐炭變災に依る百三十四人の變死者があつた關係で此れを除いた自殺等に於いては今年度が三人の增加である、尙自殺者の年令は依然三十歲前後の者が首位を占めて居り月別に見ると花見の浮れ切つた四月が最高で一番少いのは三月、二月である

## 講演會延期
### 淺野翁眼を病み

平町教育會、青年團、軍人分會の聯合主催に係る淺野總一郎翁の修養講演會は二十四日午後六時より元郡會議室に於て開催の筈の處二十三日午後十一時半原の町より來平した淺野翁は突然眼を病み二十四日歸京したので更に期日を定め講演會を開く事とし今回は延期となつた

### 尙二、三日は
## 梅雨氣分
### 此れが上ると
### 愈々酷熱

例年なら土用に入ると急激な暑熱に襲はれ四倉、小名濱等の海水浴場には殊に今日の樣な土用の丑の日などには凉を求めて逃れる人が數萬を數へてゐるのに今年は頗る變調な天候で土用だと言ふのに數日からまだ梅雨に逆もどりと言ふ形だが此れに就いて小名濱測候所では「此の變調な天候は尙三四日續くでせう然し變調な天候が上ると急激な暑熱が襲つて來るでせうから健康上充分注意しないと惡性な病魔に患ふかも知れません」と語つてゐた

### 今日の溫度と
## 明日の天候
### 小名濱測候所發表

本日正午の溫度は七十五度九分　明日の天候は北東の風曇り一時晴れ

## 今日の丑の日に
## 食膳に上つた
### 鰻…牛…梅干…と
## 市內の相場

今日は土用の丑の日、昔しの通人は此の日に鰻を食べ向暑の身体がためをしたのが今日に傳はつて一つの迷信となつて土用の丑の日には「ウ」の字の付くものなら何んでもよいとあつて「ウナギ」「ウサギ」「ウシ」「ウドン」「ウーメン」「ウメボシ」などが好んで食べられてゐる本日の丑の日に平町だけでウの字の付いたものが食膳に上つた量を調べて見ると、何んと言つても牛が最高で約百貫が飛ぶ樣に賣り賑かれた昨日の牛屠殺數が七頭馬が三頭次は鰻だが此れは約五十貫內外だらうと思はれるウの字の付く物今日市內の相場は次の如くである

△牛肉

| | | |
|---|---|---|
| 百目 | ロース | 八十錢 |
| 同 | 上肉 | 六十錢 |
| 同 | 中肉 | 四十錢 |
| 豚肉同 | ロース | 六十錢 |
| 同 | 上肉 | 四十錢 |

△うなぎ

| | | |
|---|---|---|
| 百目 | 上物 | 七十五錢 |
| 同 | 中物 | 六十錢 |
| 同 | 下物 | 五十錢 |

△うーめん　四十五匁たば

| | |
|---|---|
| 乾製上物 | 四錢（白石産） |
| 乾製特製 | 四錢八厘 |
| 春製 | 三錢八厘 |

△うどん

| | |
|---|---|
| 三十匁たば | 七錢五厘 |

### 第拾七期
## 營業報告
### 貸借對照表
（昭和參年上半期）

| | |
|---|---|
| 資產之部 | |
| 未拂込資本金 | 三、七五〇、〇〇〇、〇〇 |
| 線路并內工作物 | 五三二、六六一、八四 |
| 機械器具貯藏品及土地建物什器 | 六五、三三八、四〇 |
| 有價證券 | 一五、九〇〇、〇〇 |
| 假拂金 | 六五、一九〇、七七 |
| 受取手形及未收金 | 五九、〇九九、六八 |
| 發電所勘定 | 一、六二一、四六七、一六 |
| 變電所勘定 | 二三四、三三八、八五 |
| 預ケ金及現金 | 二三八、〇一三、五八 |
| 合計 | 六、四五〇、八九〇、二八 |
| 負債之部 | |
| 資本金 | 五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇 |
| 諸積立金 | 一二八、七六六、〇〇 |
| 假受金 | 三、八七一、一二 |
| 社債及借入金 | 一、二〇〇、〇〇〇、〇〇 |
| 支拂手形及未拂金 | 二九、五六四、八七 |
| 未拂配當金 | 八一五、二六 |
| 當期利益金 | 八七、八五二、〇四 |
| 合計 | 六、四五〇、八九〇、二八 |

### 利益金處分

| | |
|---|---|
| 當期利益金 | 八七、八五三、〇四 |
| 內 | |
| 財產減價銷却 | 一五、〇〇〇、〇〇 |
| 社債利子引當 | 八、四三七、五〇 |
| 諸積立金 | 五、五〇〇、〇〇 |
| 役員賞與金 | 四、〇〇〇、〇〇 |
| 株主配當金 | 五二、五〇〇、〇〇 |
| 後期繰越金 | 二、四一五、五四 |

昭和參年六月參拾日

## 植田水力電氣株式會社

取締役社長　金成　通
取締役　安島重三郎
同　白井博之
同　高岡唯一郎
同　小林藏次
同　古川傳一
監査役　根本祐太郎
同　馬目誠一

追而取締役ノ期滿了ノ處改選ノ結果全員再選就任セリ